



国立大学法人

宮城教育大学 附属図書館ニュース

ISSN 1348-1525

こもれび

KOMOREBI

MIYAGI UNIVERSITY OF
EDUCATION LIBRARY NEWS

No.128

2016.3.11 発行

特集

教科書と 児童文学

CONTENTS

- 02 図書館インフォメーション
- 04 特集 教科書と児童文学
ー教材の原作にふれてみよう
- 08 歴史のなかの教科書
- 10 自著を語る
- 11 学生の読書室
- 12 子ムエの本棚
- 16 図書館と本のエトセトラ
平成28年度図書館開館カレンダー





図書館からのお知らせ!

図書館

Library Information

インフォメーション

卒業生のみなさん

ご卒業おめでとうございます

宮城教育大学で過ごした日々は有意義でしたか? 皆さんの学生生活の中に図書館が息づいていたのなら、スタッフ一同とても嬉しく思います。なお、まだ借りている資料がある場合は、3月中にご返却ください。

また、卒業後も宮教大の図書館を利用できるのはご存知ですか? 閲覧はもちろん、5冊2週間までの貸し出しも可能です。学生時代のように資料を借りたい場合は、住所が確認できる身分証明書を持参し、ご来館ください。

新入生のみなさん

ご入学おめでとうございます

充実した大学生活を送るために、図書館の活用をお伝えしましょう!

図書館ツアー

- 4月11日(月)～15日(金) ● 各日12:30～12:50
- 図書館ツアーに参加し、その日に本を借りた人に、各日先着30名にプレゼントがあります。

「歴史のなかの教科書～家庭科～」展

平成27年7月30日(木)から8月24日(月)まで、「歴史のなかの教科書～家庭科～」展を開催しました。家庭科は私たちの生活に密着した教科であり、家庭科教育の歴史を知ることには、私たちの生活や社会を振り返り、これからの生き方を展望することに繋がります。今回の展示会では、明治時代から現代までの家庭科教科書約350点を展示し、時代や社会との関わりの中で家庭科教育と教科書の変遷を捉え返しました。オープンキャンパスに参加した高校生や、教員免許状更新講習のため来学した教員など、学外からも多数の来場者がありました。

また、8月20日(木)には、家庭科教育講座・小野寺泰子准教授による記念講演会「家庭科教科書のあゆみ～明治期から現代まで～」を開催しました。講演会には現職の教員も含め大勢が参加し、家庭科教育の在り方などについて、活発な質疑応答がありました。

※展示会の内容は、本号の「歴史のなかの教科書」シリーズ第7回「家庭科」のページで紹介しています。



スパイラルセッション

図書館では体験型のイベントを企画しています。平成27年には4つのプログラムを実施しました。

- ・ 第1回 6月 22日(月) 海外を知ろう!(第4回)「教えて!留学生のいろいろ」
- ・ 第2回 7月 31日(金) 操作してみよう!電子黒板(模擬授業もあるよ!)
- ・ 第3回 10月 21日(水) 初めてのブックトーク
 - 11月 11日(水) 初めてのブックトーク 実践編
 - 12月 9日(水) 初めてのブックトーク 実践編
- ・ 第4回 12月 2日(水) クリスマスカード・ワークショップ

※第3回「初めてのブックトーク」の様子は、本号の「子ムエの本棚」のページで詳しく紹介しています。



第1回 教えて!留学生のいろいろ

宮城教育大学創立50周年記念 「歴史のなかの教科書 ——思い出の教科書との再会」展

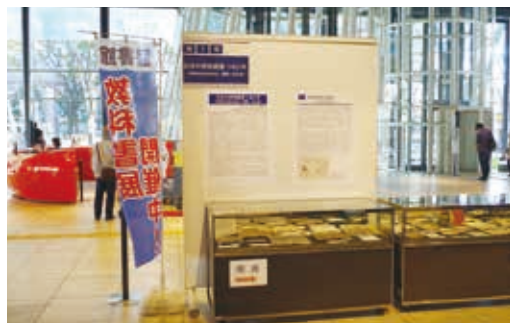
平成27年10月16日(金)から18日(日)の3日間、仙台市民図書館・仙台市教育委員会と協力し、せんだいメディアテークにて、宮城教育大学創立50周年記念「歴史のなかの教科書——思い出の教科書との再会」展を開催しました。

展示会は、第1部「日本の学校教育140年」(学校教育講座・笠間賢二先生監修)、第2部「教科書のなかの児童文学」(国語教育講座・中地文先生監修)、第3部「手に触れる教科書」、第4部「宮城教育大学のあゆみ」の4つのコーナーで構成しました。

ご来場者からは、「教科書で学んだ懐かしい思い出が蘇るようだった」、「教科書の歴史的な変遷がよく理解できた」など、多くの感想が寄せられ、3日間の入場者数は、1,375名となりました。

また、10月18日には、国語教育講座教授・中地文・児玉忠両先生による関連イベント「展示解説と朗読 教科書と児童文学」を実施しました。

※中地先生と児玉先生のイベントの様子は、本号の特集ページで取り上げています。



男女共同参画推進図書展

昨年度に引き続き、平成27年11月25日(水)～平成28年2月9日(火)の期間、本学の男女共同参画推進プロジェクトと附属図書館の共催により「男女共同参画推進図書」展を開催いたしました。国立女性教育会館女性教育情報センターの協力で、「性」と「ジェンダー」に関連する120点を展示しました。後期開講授業「性・文化・ジェンダー」の受講生を中心に多くの貸出がありました。





KOMO REBI

特集

FEATURE ARTICLES

教科書と児童文学

平成27年10月16日(金)から18日(日)の3日間、宮城教育大学創立50周年を記念し、「歴史のなかの教科書——思い出の教科書との再会」展を開催しました(展示会の内容は、本号の「図書館Information」も参照)。

最終日の18日には、展示会の第2部「教科書のなかの児童文学——教材の原作にふれてみよう」の内容に関連して「教科書と児童文学」と題し、展示解説と朗読(解説:本学国語教育講座教授・中地文先生、同・児玉忠先生)を行いました。

両先生のお話は、戦後から現在に至る国語教科書の変遷を、児童文学の展開や社会の動向なども視野に入れて捉える、とても興味深いものでした。今回の特集「教科書と児童文学」では、この展示解説の中から特に小学校の国語教科書に掲載された物語文教材の歴史と現在に関わる話題を取り上げ、紹介します。



「歴史のなかの教科書——思い出の教科書との再会」
第2部「教科書のなかの児童文学——教材の原作にふれてみよう」の展示風景

教材の文学性とは何か —宮沢賢治「どんぐりと山猫」の 教材化から—

中地文

今回の展示「教科書のなかの児童文学——教材の原作にふれてみよう」では、小学校国語教科書に焦点を当て、児童文学を原作とする教材の変遷をたどりました。

出発点としたのは、1946年に文部省が新教科書完成までのつなぎとして発行した、いわゆる「暫定教科書」です。従来の教科書に修正を加え、一部の教材の削除と補充を行ったというこの教科書に、アンデルセン「みにくいあひるの子」や宮沢賢治「どんぐりと山猫」(教材の題名の表記は、教科書に従う。以下同じ。)など児童文学を原作とする教材が新たに掲載されました。これらの教材は、手入れが行われたうえで、1947年度に刊行された第六期国定教科書に引き継がれていきました。

その後、1949年度から検定教科書が使用されるようになりますが、1950年代の物語文教材は、「有名な文学作品」(「文部時報」1948年5月)を選んだという第六期国定教科書の傾向を概ね踏襲しています。アンデルセン、小川未明、浜田広介、宮沢賢治の童話の教材化が目立つほか、「ロビンソン・クルーソー」や「ピノチオ」など、「名作」の名で出版されていた作品が教材化されました。



デフォー「ロビンソン・クルーソー」
西原慶一他編『国語の本 4年上』二葉
昭和27(1952)年検定、昭和28年発行

しかし、ここで気になるのは、「有名な文学作品」を教材化するにあたって意識された文学性とは何だったのかということです。海外の名作が大胆なダイジェストとして掲載されていることから考えると、それは必ずしも物語全体のストーリーや主題ではなかったといえるのではないかと思います。また、ほとんどの教材が原作の表現に手を入れたものであることから、作品の表現も重視されていなかったことがわかります。



たとえば、宮沢賢治の童話「どんぐりと山猫」には、冒頭に「あした、めんどなさいばんしますから、おいでなさい。とびどぐもたないでください。」という「おかしなはがき」が登場しますが、暫定教科書『初等科国語 四』（文部省、1946年）に掲載された「どんぐりと山ねこ」では、葉書の文面は「あした、めんだうなさいばんをしますから、おいでください。とびだうぐを持たないで来なさい」となっています。原作の「まはりの山は、みんなたつたいまできたばかりのやうにうるうるもりあがつて」という表現は、暫定教科書では「まはりの山は(中略)うるはしくもりあがつて」と書きかえられています。



左・中地文教授、右・児玉忠教授

教材文の読まれ方は変化する —物語文教材「ごんぎつね」 (小学4年)—

児玉忠

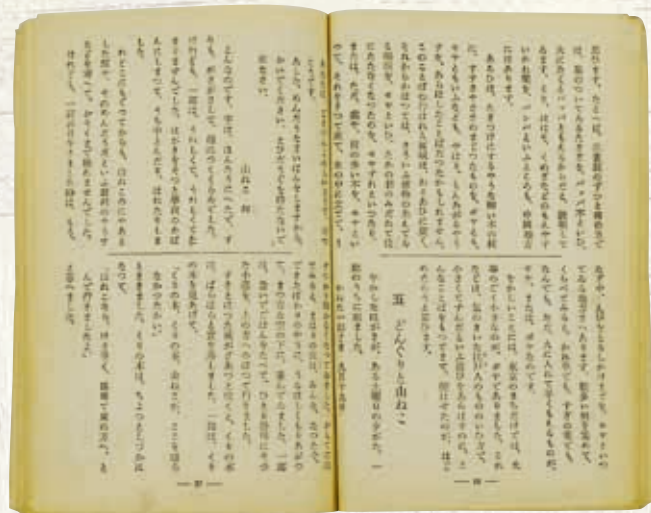
さて、小学校の物語文教材の代表的なものといえば、新美南吉の「ごんぎつね」があります。1953年に中学校国語科の教材として取り上げられて以降、1960年代に入って小学校国語科の教材として定着し、現在も小学校4年生の全て教科書に掲載されています。いわば、60年近くにわたって教室で学ばれてきた長寿・定番教材です。

あらすじは次の通りです。「ごん」と呼ばれる一匹のきつねが、山から村に出てきてはいたずらばかりして村人を困らせていました。しかし、村人の一人である「兵十」にしたいはずから、ごんは兵十の母を死なせてしまったと後悔し、そのつぐないとして栗やまつたけをこっそりと兵十の家に届け続けることになります。そんなある日のこと、そのことを知らない兵十は栗をもってこっそり家の中に入ったごんを火縄銃で撃ち殺してしまったのでした。



新美南吉「ごんぎつね」

山本有三他編『小学国語 四上』日本書籍
昭和45(1970)年検定、昭和46年発行



宮沢賢治「どんぐりと山ねこ」
文部省『初等科国語 四』日本書籍
昭和21(1946)年発行 【暫定教科書】

さらに、第六期国定教科書『国語 第四学年 下』（文部省、1947年）では、同じ部分が「あした、めんどな裁判をしますから、おいでなさい。とび道具を持たないでください」となり、「まわりの山は(中略)きれいにもりあがつて」と改変されていきます。このような書きかえは、「なるべく、方言や、なまり、舌のもつれをなおして、標準語に近づける」(「昭和二十二年度(試案)学習指導要領 国語科編」)といった教育的な意図から行われたと見受けられますが、こうしてみると、原作の持つ文学性と教材のそれとは同じとはいえないということになるでしょう。

教材とその原作とがイコールではないのは、過去の話というわけではありません。現在も多かれ少なかれ原作に手が加えられて教材は作られており、原作との違いの意味を探ると、教材の特徴は浮かび上がってきます。『小学生の国語 4年』（三省堂、2011年）に掲載された「いわたくんちのおばあちゃん」と、『新しい国語 5上』（東京書籍、2011年）に掲載された同教材とを、それぞれ原作である天野夏美『いわたくんちのおばあちゃん』（主婦の友社、2006年）と比べてみると、それは実感できるのではないのでしょうか。



この話に対して、これまで小学生の子どもたちは、「ごんが死んでかわいそう」とか、「つぐないにせっかく栗をもってきたのに、撃ち殺されてしまって悲しい」といった読後感をもってきました。

しかし、最近の授業では、こうした読みに対して新しい視点からの読みが行われています。それは、物語の冒頭の一文「これは、わたしが小さいときに村の茂平というおじいさんから聞いた話です。」という一文に注目する読みです。この一文に注目すると、この物語が村人から村人へと代々にわたって語り継がれて現在に至っていることがわかります。

では、なぜこの物語は村に代々語り伝えられてきたのでしょうか。それは、母を思うごんのつぐないの気持ちを村人たちが理解し、ごんを受け入れたからであると推察することができます。つまり、冒頭の一文に注目することによって、「償いをするごんが殺されてしまう悲しいお話」から「償いが理解され村人達に受け入れられるお話」へと読まれ方は変化し、それにとまって主人公ごんの人物像も大きく変化するので

す。このように、長寿・定番教材は、安定した読まれ方がなされるからだけではなく、絶えず新しい読まれ方(魅力)がなされることもその特徴になっています。

教科書での二種類のテキスト、消滅と復活

—物語文教材「大造じいさんとがん」(小学5年)— 児玉忠

さらに、「ごんぎつね」以外にも、小学校国語科における代表的な物語文教材はいろいろあります。たとえば、「大きなかぶ」「お手紙」「スイミー」「かさこじぞう」「ちいちゃんのかげおくり」「モチモチの木」「一つの花」「わらぐつの中の神様」「やまなし」「川とノリオ」などがそれです。こうした教材群のなかで、教科書掲載において特異な性格をもつものに「大造じいさんとがん」があります。

「大造じいさんとがん」がもつその特異性とは、一つには同じ教材文に二種類のテキストが存在している点、もう一つは教科書に長く掲載されたあと姿を消し、その後また掲載されるという経緯をたどっている点で特異です。

二種類のテキストとは、たとえば光村図書の教科書では「大造じいさんとガン」に「前書き」なる文章が掲載されていますが、教育出版ではその「前書き」が掲載されていません。この「前書き」は、作者がこの作品を全集に収録する際に加筆したものです。光村図書はそれを受けて「前書き」を入れて教科書に掲載し、教育出版は「前書き」を入れずに初出のまま教科書に掲載しました。こうした事実は、作品の読みにも影響を与えるといえるでしょう。

「前書き」のある光村図書のテキストからは、この物語が72歳の太造じいさんの35、36年前の若い頃の話であることが示され、教科書の挿絵もそのようになっています。一方、教育出版では老人自身が直接語っている物語として読むことになります。現在、「前書き」を掲載しているのは光村図書だけ。他のすべての会社(教出・東書・三省・学図)はすべて「前書き」を掲載していません。「前書き」の有無がどういう効果をもたらすか、読んで確認していただけたらと思います。



単行本『動物ども』(三光社、昭和18(1943)年5月)に収録された「大造爺さんと雁」には、初発表時にはなかった「まへがき」が追加されている。「まへがき」は次のようにはじまる。「知りあひの狩人にさそはれて、私は猪狩に出かけました。猪狩の人々はみな栗野岳(鹿児島県にある山)の麓の大造爺さんの家に集まりました」。

※「動物ども」の表紙は、「名著復刻 日本児童文学館 第二集」(ほるぷ出版、昭和49(1974)年9月)より転載。

もう一つの教科書での消滅と復活についてですが、一般に、教科書教材には一度姿を消せばその後もう一度掲載されることはほとんどないという慣例があります。ところが、この「大造じいさんとがん」は多くの教科書で一度姿を消したものの、最近になってまたすべての教科書で掲載されるという経過をたどっています。それは、一つには大造じいさんの自然観に問題があるからでした。

というのも、じつは本文を読んでも大造じいさんはそもそも「狩りを生業とする猟師」なのか、それとも猟銃を使って生き物を仕留めることを楽しむ「趣味のハンター」なのかがよくわかりません(どちらとも読めます)。かりに「趣味のハンター」であるとすれば、趣味で生き物を殺傷するという行為自体、現代からみればアナクロニズムといえます。そうした不確かさで問題ををはらむ人物像を教材としてよいかというのが一つの問題です。もちろんそれだけが理由ではありませんが、そうした大造じいさんの自然観という根本的な問題もあって、大造じいさんは時代遅れの物語として教科書からは消えていくことになりました。

ところが、教科書から消えると全国の教室(教師たち)からその復活を望む声が上がりました。フェアプレーを想起させるスポーツ的な展開にくわえ、切れのある鮮やかな文章などが子どもたちに人気なのだといえます。そうした声に押される形で、今やすべての教科書で「大造じいさんとがん」は復活しました。

このように、小学校の物語文を代表する教材であっても、テキストそのものやテキストの評価が今なお揺れている教材も存在しています。



教材の変遷の意味するところ —1946年から 2015年まで—

中地文

最初にお話したとおり、戦後1946年以降の小学校国語教科書に掲載された物語文教材の歴史は、原作に「有名な文学作品」「名作」を選ぶことから始まりました。これは、「昭和二十二年度（試案）学習指導要領 国語科篇」において、「国語科学習指導の目標」に「品性を高め、教養を身につける」等の文言があることともかかわっていたのではないかと考えられます。

1960年代に入ると、ウィーダ「フランダースの犬」やシュピリ「アルプスの少女」など、世界の名作にもとづく教材が依然として見られる一方、小川未明、浜田広介、宮沢賢治、新美南吉に加えて、鈴木三重吉、千葉省三、坪田譲治といった日本近代児童文学作家の作品を原作とする教材も増えてきました。また、石井桃子、神沢利子、中川李枝子など、現代児童文学作家の名も少しずつ教科書に顔を出し始めました。

その後、現代児童文学作家の作品を原作とする教材が続々と登場してくるのは、向川幹雄氏や府川源一郎氏が指摘しているとおり、1970年代です。あまんきみこ「白いぼうし」、安房直子「きつねの窓」、いぬいとみこ「長い長いペンギンの話」、今江祥智「三びきのライオンの子」、今西祐行「一つの花」、斎藤隆介「モチモチの木」、佐藤さとる「だれも知らない小さな国」、古田足日「大きい一年生と小さな二年生」、松谷みよ子「やまんばのにしき」などが教材化され、「白いぼうし」をはじめ、そのうちの一部は現在も採録され続けている定番教材となっていきました。レオ・レオニ「スイミー」など、絵本の教材化も、この時期に進みました。

一方、近代児童文学作家の作品を原作とする教材の掲載は、この頃から目に見えて減っていきます。鈴木三重吉「少年駅伝夫」は74年を最後として、小川未明「野ばら」は89年を最後として教科書から消え、物語文教材の原作者は、宮沢賢治や新美南吉などを除いて、現代児童文学作家になりました。以後、1980年代には角野栄子「サラダでげんき」、灰谷健次郎「ろくべえまってるよ」、山下明生「島引きおに」などが、1990年代には那須正幹「そうじ当番」、森山京「いいものもらった」などが、2000年代に入ると木村裕一「あらしの夜に」、宮西達也「ニャーゴ」などが教材として加わって現在に至っています。

それでは、なぜこのように教科書掲載教材は移り変わってきたのでしょうか。教材の変遷が学習指導要領の変遷に対応していることは当然ですし、また小学校の物語文教材が現代日本語の文章を選んできたことも理由として挙げられると思いますが、それだけではない意味があるのではないのでしょうか。

教科書において現代児童文学を原作とする教材が主流と

なるのは1970年代でしたが、児童文学の世界では、近代から現代への転換が実現するのは1959年以降とされています。このことから考えると、児童文学の世界の動向は約十年遅れて教科書に反映されているといえるでしょう。とはいえ、教材が児童文学の動きを追いかけてきたことは間違いないようです。松谷みよ子「やまんばのにしき」や、宮西達也「ニャーゴ」など、原作発表から数年のうちに教材化されているものもあり、新しい児童文学を原作とする新たな教材が次々と生み出されてきています。



松谷みよ子「やまんばのにしき」
山本有三他編『小学国語 四下』日本書籍
昭和45（1970）年検定、昭和46年発行

こうしてみると物語文教材の変遷は、現代児童文学と同様に、現代社会の価値観と対応するテーマ・表現を求める動きだったとみることもできるのではないのでしょうか。近年、高齢者と子どもとのかかわりを描いた児童文学の作品が増えてきましたが、いとうひろし「だいじょうぶだいじょうぶ」（東京書籍）をはじめ、それらの教材化も早速進められています。立松和平『海のいのち』（ポプラ社、1992年）など自然との共生を描いた作品が、原作の刊行から数年後にいち早く教材化されたのも、現代社会の問題と教材との結びつきを示すものといえてよいでしょう。

なお、教材化される賢治童話が戦後初期の「どんぐりと山猫」や「気のいい火山弾」から、1970年代以降、「やまなし」「注文の多い料理店」へと移り変わってきたことにも、時代と教材とのかかわりは表れているものと思われます。

今日までの家庭科のあゆみ

家庭科教育講座 小野寺 泰子

家庭生活に関する学習は、明治以前も、私塾に通ったり師匠についたりしながら裁縫や行儀作法等を習うかたちで行われ、女子のための教育として重要な意味を持っていました。

明治5(1872)年の学制発布以後、約70年間、学校教育の中で家庭生活に関する学習はおもに裁縫科と家事科という2つの教科で進められ、家族制度に基づく良妻賢母をめざす女子教育の中心教科でした。裁縫教育は、製作技術を中心としたものであり、女子に必要な教養を修める核となる教科として学校教育の中に定着しました。その教授法に関しては、旧来の個別教授から他教科同様の一斉教授を成立させることが大きな課題であり、朴沢三代治と渡辺辰五郎の二大先駆者の工夫改善によって実現されました。この時期の教科書のほとんどは教師用の教科書が参考書として出版されました。一方、家事教育は、明治12(1879)年に小学校高等科の「家事経済」、明治44(1911)年に高等小学校の理科の中に定められた「理科のうち家事」(週1時間)と変わりました。

大正期は、第一次世界大戦の影響による社会情勢の変化が家庭生活に変革をもたらし、家事・裁縫教育も新しい方向へと進みました。裁縫教育では、洋服が活動に便利で、生活の効率化に役立つものとしての必要性が高まり、高等小学校の教科書にはミシンを用いた教材が取り入れられました。家事教育は、大正8(1919)年に理科から独立し、大正15(1926)年には高等科女子の必修教科となりました。大戦後の家庭生活の合理化・科学化が図られた影響を受け、教科書にもそうした内容が反映されました。その後、昭和16(1941)年には国民学校令が公布され、同年の施行規則では、裁縫科及び家事科は、音楽、習字、図工、工作と共に構成する芸能科に位置づけられ、実務を取得し、婦徳の涵養

に資する教科となりました。

昭和20(1945)年に第二次世界大戦が終結し、翌昭和21(1946)年には日本国憲法が公布され、この間、教育面において多くの改革が行われました。日本国憲法及び民法の理念と、昭和22(1947)年に制定された教育基本法・学校教育法による新制度のもと、小・中・高等学校に民主的な家庭建設者を育成することを目的として「家庭科」が新設されました。教科書の内容は、家庭生活は男女が協力して行われることや家庭生活を能率よく処理する工夫が大切であることなどが強調されました。戦後の家庭科は産業構造や生活の急激な変化に対応しながら、小・中・高等学校ごとに改正され、内容の検討が進められて今日に至っています。1970年代以後は家庭電気機器の普及や大量生産される既製服や加工食品等の消費、女子の家庭外就労の増加により家事作業が簡素化されるとともに、消費者・生活者として社会に生きるための教育が求められるようになりました。そして、平成元(1989)年の教育課程改定により、小学校から高等学校まで一貫した男女共修の家庭科が制度上確立しました。

家庭科教育は、時代の進展にともない内容・名称の変遷はありましたが、明治以来140余年の歴史を持っています。家庭科教科書の変遷を概観すると、その性格と内容が社会的背景に大きく影響されてきたことがわかります。今日では、少子・高齢化への対応や環境保全のための取組、循環型社会の形成等が求められ、教科書にも数多く取り上げられるようになりました。これからも、様々な生活課題を解決できる力の育成を図るべく、日々の生活へ向ける目を研ぎ澄まさせていきたいものです。

【参考文献】・奥田真丈 監修『教科教育百年史』1985年、建帛社
・日本家庭科教育学会 編『家庭科教育50年—新たなる軌跡に向けて—』2000年、建帛社



1 『小・中裁縫教授書』

朴沢三代治編輯、仙台：樂善堂、明治17(1884)年9月出版

小学中等科用の教授書で、師範学校用教科書として使用された。「松操学校の図」と題する一斉教授の図が掲げられている。明治初期からこのような出版物があることから、仙台が裁縫教育の先進地であったことがうかがえる。



2 『家事教科書 全』

河口愛子著、東京：帝國書院、大正15(1926)年10月15日発行

家事科は大正8(1919)年に理科から独立して高等科女子の選択科目となり、大正15(1926)年には必修教科となった。『家事教科書 全』は、女子師範学校・高等女学校・実科高等女学校等の家事科教科書として編集されたものである。



3 『家庭 中学校 第一学年用～第三学年用』

文部省著、東京：日本書籍株式会社、昭和22(1947)年発行

昭和22(1947)年の教育改革によって新設された中学校の「家庭」の教科書は、縦書き形式をとっており、まだ戦争中の形式を踏襲していた。内容は、家庭生活は男女が協力して行われること、家庭生活を能率よく処理する工夫が大切であることなどが強調された。



4 『働く喜び 都市生活 職業教育協会編 1～3』

職業教育協会 佐藤寛次 著、東京：開隆堂出版株式会社、昭和26(1951)年12月5日発行

中学校職業・家庭科用である。昭和26(1951)年に「職業・家庭」という教科が登場した。それに対応した教科書は昭和27(1952)年度から使用が開始され、「技術・家庭」が施行される前年、昭和36(1961)年度まで使用された。男子用・女子用、都市用・農村用という性別、地域別の教科書が数多く出された。



5 『新訂版 家庭一般』

成田順ほか23名著、東京：教育図書出版株式会社
昭和47(1972)年2月5日発行

『家庭一般』の指導内容は8項目となっている。教科書には、調理器具として電子レンジの使い方が写真入りで説明されていたり、快適な住まいとしてダイニングキッチンや洋式浴槽が取り上げられていたりするなど、近代的な生活への流れが見られる。



6 『家庭基礎 パートナーシップでつくる未来』

宮本みち子ほか著、東京：実教出版株式会社、平成27(2015)年1月29日発行

平成21(2009)年の高等学校学習指導要領改訂では、前回の重点に加え、「家庭を築くことの重要性、食育の推進、子育て理解や高齢者理解、支援する行動力の育成など少子化・高齢化への対応、等」を重視している。教科書にもそれらの内容が数多く掲載されている。

自著を語る

宮城教育大学の先生方に「自著」に込めた想いを語っていただきます。



音楽教育講座 教授
小塩 さとみ

『日本の音 日本の音楽』

シリーズ音楽はともだち②、アリス館、2015年4月

みなさんは、「日本の音」「日本の音楽」と聞いた時に、何を思い浮かべますか。この本はこども向けに日本の音と日本の音楽を紹介した本です。対象は「小学校高学年から」ですが、写真やイラストがたくさん入っているので、もっと小さいこどもでも本を眺めて楽しめます。また漢字にはルビがふってありますので、留学生や「日本音楽は用語に漢字が多くて苦手」と感じている大学生にも気軽に読んでもらえると思います。

本はわたしたちの身のまわりの音を考えることから始まります。次に、童謡やお祭りの音楽など身近な音楽を紹介し、さらに日本の音楽の歴史や日本の楽器の説明へと進みます。演奏家へのインタビュー、日本の伝統音楽を扱った学校の音楽の授業の紹介、日本音楽関係のウェブサイトの紹介などもあります。最初から順番に読んでよいですが、興味のある部分から読み始めることもできます。

この本を書いて改めて感じたのは、日本の音楽は、国語や歴史、地理、美術、体育などの分野と密接な関係をもっているということです。実際にこの本を書くために小学校の国語や社会の教科書を見ると、音楽関係の記述がたくさんありました。限られたページ数の中で、何を取り上げるかを決めるのは大変でしたが、この本をきっかけに日本の音楽や文化に関心をもってくれる人が増えればうれしいです。宮教大の図書館にも所蔵されていますので、ぜひ手にとって読んでみてください。

『オンチは誰がつくるのか オンチ克服への第一歩』

パブラボ
2015年7月

「オンチはなおりますか?」と本当にたくさんの方から質問され続けてきた。

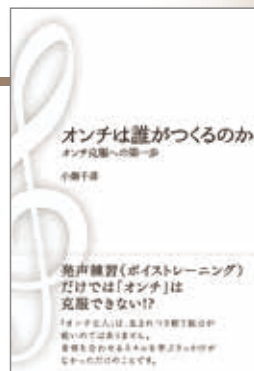
私はオンチをなおるかどうかの問題ではなく、発達の途中として捉えている。歌いながら音程が合っているかどうかわからない児童でも、適切な指導を行うことでできるようになる。大人になってからでもオンチは「克服」できる。どうすれば克服できるのかを、今までの研究やレッスン事例からできるだけわかりやすくまとめたのが本書である。

ところで最近、某新聞社の取材を受けた。「なおる」ではなく「克服」を使うことを散々確認して引き受けた取材であった。予想以上に記事は大きく扱われ、インターネットの大手プロバイダーのニュースにも掲載された。

しかし新聞社のオンラインニュースを見て愕然とした。なんと記事のタイトルが「音痴は直せる!」となっている。取材時の約束は一体なんだったのだろうか、暗澹たる思いに沈んだ。「直せる」は確かにインパクトが強い。でもそれでよいのか?

たとえば小学校で、正しい音程に合わせられない子どもに接した時、「練習すればなおる」と思う教員と、「発達の途中だから向上する」と思う教員とでは子どもへの眼差しが全く異なる。音程が外れる子ども、音程が合っているかどうかわからない子どもは、能力が低いわけではない。もちろん病気でもないから「なおる」「なおらない」のかを問うのは無意味なのである。

将来教育に携わる大学の学生には、本書を読んでオンチの問題の本質をどうかご理解いただきたい。



音楽教育講座 准教授
小畑 千尋



保健体育講座 准教授
神谷 拓

『運動部活動の教育学入門 歴史とのダイアログ』

大修館書店
2015年12月

あなたは、何歳ですか?

突然、失礼な質問を投げかけましたが、私は40歳です。私が中学校で過ごしたのは今から27年前の1990年代であり、自著・『運動部活動の教育学入門—歴史とのダイアログ』(大修館書店)では、第5章〜第6章の時期にあたります。その章を開くと、当時、運動部活動における道徳教育、加入の義務化が進められていたことがわかります。実際に、今よりも「運動部活動に参加して当たり前」という状況でしたし、また、生活指導や態度の矯正という建前で、殴る先生もいました。このように本書では、自分が体験したり、見てきたりした運動部活動を、冷静な目で捉え直すことができます。

今、20歳の学生は、7年前に中学生でした。自著で言えば、第7章の時期にあたります。2010年には学習指導要領が改訂され、部活動についても明記しましたが、これまでに蓄積されてきた問題が噴出する時期でもあります。勤務時間や手当の問題、そして、勝利至上主義や体罰・暴力の問題…。これらは、今に始まったものではなく、未解決のまま今日に継承されているのです。教員をめざす学生にとっては、無視できない状況ですね。

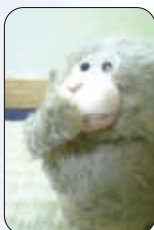
これからの運動部活動は、どうなっていくのでしょうか。少なくとも、同じ問題は繰り返さないようにしたいものです。それには、これまでの運動部活動との対話・ダイアログが不可欠でもあります。本書が、その役に立てば嬉しいです。

第22回

My Favorite Books

学生の読書室

私が選ぶ
この一冊



私が選ぶ
この一冊

『うろんな客』

【エドワード・ゴーリー著、柴田元幸訳
河出書房新社、2000年11月】

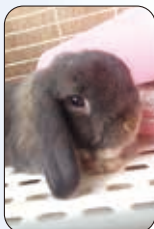
初等教育教員養成課程
家庭科コース2年

山下 ひしの



私が紹介したい本はエドワード・ゴーリーの『うろんな客』です。何となく立ち寄った本屋の絵本コーナーで、表紙に描かれているキャラクターに惹かれて手に取った一冊でした。本を開いてみると韻を踏んだ英文に短歌調の訳文が付いていて、その独特な世界観にすぐに惹き込まれてしまいます。本の内容は、ある日突然家庭の中に謎の生物が入り込んで来て、壁に鼻をつけたまんま一日中突っ立っていたり、いたずらをしたりと様々な奇妙な行動をするその生き物がそのまま居ついてしまうというお話です。家族の側からするとほんとにも迷惑な招かれざる客ですが、何故かどうしても憎めないのです。それどころかとっても可愛らしくて癒されます。最近疲れている気がするという方は試しに読んでみてはいかがでしょうか。

絵本という子供の読みものだというイメージがあるのではないと思いますが、子供よりも大人の方におすすめしたい一冊です。是非、謎の生物は一体何をモデルにして書かれているのかを考えながら読んでみてほしいなと思います。



私が選ぶ
この一冊

『キケン』

【有川浩、新潮社、2010年1月
(新潮文庫版2013年7月)】

初等教育教員養成課程
家庭科コース2年

中村 宥菜



(文庫版)

この原稿を依頼され、何を紹介しようかなと思いつつ、王道な著者ではありませんが有川浩さんの「キケン」を選びました。

まず、本の表紙からして目をひきます。漫画チックな表紙。一体どんな話なのかといざ読み進めると、漫画のようにすらすらとあっという間に読み終えてしまいました。

とある大学のちょっとキケンな大学生たちの青春を描いた物語です。「キケン」とは、「機械制御研究部」の略。物語は、キケンの部長である上野と副部長の大神が、新入生である主人公の元谷と友人の池谷を半強制的に入部させるところから始まります。この機研(キケン)というサークル。メンバーは個性的な人たちばかり。名前の通り、かなり危険なサークルです。恋愛や学祭をはじめ、ハチャメチャな学生生活がぎゅっと詰まった一冊です。最後のシーンでは今までの章とは一味違って感動してしまい、読み終えたときはほんわかした気持ちになりました。大学生のうちにこの本に出会えて良かったなと思っています。

原稿大募集

「これもび:宮城教育大学附属図書館ニュース」は皆さんの投稿で成り立っています。特に「学生の読書室」は、学生の皆さんにお薦めの本を紹介してもらうコーナーです。読後の感想や想いをこの場で表現してみましょ。

下記の必要事項を記入の上、Eメールに文書を添付してお送りください。いつでも原稿募集中。ご投稿お待ちしております。

必要事項

- ☒ コース・専攻、学年、お名前、連絡先
- ☒ 紹介したい本のタイトルとその著者名、出版社、ISBN
- ☒ 紹介文(400字程度)

提出方法

- ☒ 次のメールアドレスあてに提出してください。
toshokan@staff.miyakyo-u.ac.jp

注意事項

- ☒ これもび次号は7月発行です。 ☒ 原稿は、これもび編集委員会で選定の上、掲載します。
- ☒ 採用された原稿は図書館ホームページにも掲載されます。

子ムエの本棚



子ムエの本棚は、児童書に関する話題をお届けするコーナーです。平成27年度第3回スパイラルセッション「はじめてのブックトーク」と、その成果をふまえた附属小学校での実演について、講座に参加した学生のみさんから報告していただきます。また、ご指導くださった中川美佳先生からのお話とミニブックトーク構想メモについても掲載しております。

ブックトーク

その1 理論編

平成27年10月21日(水)、仙台市立七郷中学校主幹教諭・中川美佳先生をお迎えして、「はじめてのブックトーク」を開催しました。

中川先生は、仙台市図書館主査としての経歴をお持ちで、学校向けのブックトークプログラムを多数開発され、仙台市図書館学校連携事業の一環として、市内小中学校にブックトークを広めました。在任時代は年間100時間以上のブックトークを実践されていました。

会場では、先生が展開する様々な知識とスキルを生かした実演に、参加した本学学生等約60名全員が息をのみ、紹介される世界に魅了されました。講義の概要は次の通りです。



中川 美佳 先生

1 読書活動の目的

読書活動の目的として、「子どもの読書活動の推進に関する法律」第2条に「読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものである」とあります。

読解力や想像力の向上、語彙の獲得なども重要な目的ですが、「読書の楽しさ」を知って、読書を「人生をより深く生きる力」にすることが、読書活動の最終目的なのです。

大人になったときに、精神的なよりどころや教養を得る手段、情報活用やコミュニケーションの力となるなど、読書には無限の可能性が秘められています。

2 ブックトークの長所

それでは、なぜ今ブックトークが有効な読書推進の手段として注目されているのでしょうか。ブックトークには様々な利点があります。

- ・短い時間で長い本を紹介できる
- ・主体的に読む態度を育成できる
- ・聞き手が自分と向き合うことができる
- ・聞き手の読書の幅を広げられる
- ・多くのニーズにこたえられる
- ・授業での図書館活用につなげられる

ブックトークは「本の試食のようなもの。本の最も魅力的な部分(おいしいところ)を少しずつ紹介することによって、聞き手は自分に合う本を主体的に選ぶことができるのです。

3 ブックトークの定義

テーマにそった優れた図書群(複数冊組み合わせる)を批評や解説を試みながら順序よく紹介することで、

- ①図書の利用促進(その本読みたいな)
- ②著者や関連分野への興味喚起
(著者をもっと知りたい、その分野おもしろそう)
- ③読書の世界への興味喚起(読書って楽しいな)

を目指す教育活動。

①から③のどれか一つでも達成できたなら、そのブックトークは成功だといえます。

4 演習 ～目的を意識しながら本を紹介～

隣同士3人1組を作って早速実践。参加者には、事前に紹介したい本をあらかじめ1冊用意してもらっています。前段の定義のいずれかを目的として選択し、2分で紹介、2分の感想交流で、お互いに本を紹介し合いました。

紹介を終えた参加者たちからは、「事前に伝える内容を吟味しておかなければ、たった2分間では上手く相手に魅力を伝えられない」という感想がありました。

そこで本を紹介する視点について吟味し、実演を交えることにしました。印象的なセリフを一部音読したり、著者についての紹介をするだけでも、瞬く間にその本に興味湧き、読んでみたい気持ちになるのは、的確な紹介は読書意欲を駆り立てるものだからなのです。

本を紹介する視点

①設定、あらすじ (必須)	時代や主人公など。 実用書なら何のはなしなのか
②一部朗読	実演『吾輩は猫である』
③素敵なセリフ・表現	実演『宇宙のみなしご』
④著者の紹介	実演『いのちのおはなし』
⑤本が書かれたエピソード	実演『明日につづくリズム』
⑥時代背景	
⑦語り手自身の思い	
⑧表紙や挿絵	実演『リバウンド』



『宇宙のみなしご』
森 絵都作
杉田比呂美画
理論社、2006年6月



『いのちのおはなし』
日野原重明文
村上康成絵
講談社、2007年1月



『明日につづくリズム』
八束澄子
ポプラ社
2009年8月



『リバウンド』
エリック・ウォルターズ作
小梨直訳 深川直美画
福音館書店、2007年11月

5 ブックトークの作り方

いよいよブックトークの作り方についての講義です。効果的に本を紹介するためには、子どもの思考の流れを想像して導くように全体の流れを作ることが大切で、全体を通して一つのストーリー性を持つように、ゴールを見据えてブックトークを構想します。

- ①テーマを決める
- ②本を選ぶ
- ③構成を考える
- ④シナリオを作る
(子どもに伝わる言葉を選ぶことが大切)
- ⑤練習する
 - ・本を手にし、声を出して練習する
 - ・本をよく見せ、書名・著者名を伝える
 - ・時間を計り、トークの過不足を修正する

6 ブックトーク当日の留意点

当日は、シナリオに頼り過ぎないで、聞き手の目を見て、反応に気を配りながら、自分の言葉で伝えるつもりでトークをしましょう。紹介し終えた本は立てかけるなどして見えるようにします。

また、聞き手が本を手にする時間と場所を確保すること、ある程度の冊数の場合はリストを準備することなど、聞き手と本の距離が縮まるような気配りも大切です。



7 ブックトーカーに求められるスキル

ブックトーカーに求められるスキルは本の知識のみに限りません。本の魅力を伝えるためには、声の大きさや、速さ、トークの構成など、プレゼンテーションの技術も大切な要因となります。

それにもまして大切なのが、聞き手の信頼を得る人柄と洞察力です。嫌な感じの相手からおもしろいと力説されても、「その本を読んでみよう」という気にはなりません。また、「トーカーの紹介はおもしろそうだが、自分には無理と思わせてもいいけません。聞き手に寄り添ってブックトークをすることが大切なのです。

*ブックトーカー：本の紹介者



ミニブックトーク構想メモ

対象の学年 年

- ①テーマを決める
- ②本を選ぶ

どちらが
先のことも
あり得る！

- ・新鮮な切り口
- ・伝えたいメッセージ
- ・タイムリーなもの
- ・自分の好きな本を！
- ・子どもたちの顔を思い浮かべながら
(ジャンル、難易度、年齢、環境)



導入：*短時間で、本の世界と子どもの距離を縮めるように
*子どもが自分に引き寄せて考えられる問いやメッセージを特に紹介したい本は最初か最後に

1冊目『 』

- ・紹介したい部分をきちんと書き出しておく
- ・いい本の文章の力は絶大。どれか1冊一部分くらいは読み聞かせを
- ・説明は端的に。かつ単調にならないように表情豊かに
- ・読んだ人だからこそ分かる印象的な場面を中心に



つなぎ：*つなぎの言葉は、次の本への動機付け。重要！
*自分の感想や作者のエピソード等も有効！
(ここで興味を失うと子どもはその後話を聞かなくなる)

2冊目『 』



3冊目『 』



まとめ

より効果的なトークのために

- ①時間と冊数
トーク時間が
10分から15分▶3冊
30分▶5、6冊
45分から50分▶10冊以内
- ②演出 具体物
 - ・テーマが昆虫ならセミの抜け殻等
 - ・スライド・音楽の活用も効果的

これからの読書生活へ
つながるような言葉かけ

今回、中川先生から経験に裏打ちされた貴重なお話をたくさん聞くことができました。ブックトークが本を紹介する有効な手段であることはもちろん、ブックトークをすることによって得られる技術は、様々な場面で活用できることにも気づかれました。ブックトーカーに求められるスキルも大切ですが、なにより大事なのが、聞き手との信頼関係だということが印象的でした。

お忙しい中、講義をお引き受けくださいました中川先生に御礼申し上げます。

ブックトークを やってみよう

その2 実践編①

平成27年11月11日(水)ブックトークの実践講座「はじめてのブックトーク」を開催しました。「理論編」では、学生の実践の後、中川美佳先生から講評をいただき、また学校の朝読書の時間を想定したブックトーク組み立てのスキルを学びました。その成果をもとに挑戦したのは2名の学生です。

感想

初等教育教員養成課程美術コース2年 阿部 裕記



私は、図書館のブックトークの企画を通して、初めてブックトークというものをしました。ブックトークという言葉自体、大学生になってから知り、実際にやってみると、様々な考えさせられることがありました。

私がブックトークでテーマとしたのは「時間」でした。時間については、単に物理的なアインシュタインの一般相対性理論にみられる時間に限らず、精神的な時間などについてもテーマの範囲としました。

現代人が利便性の追求によって一つの行為にかかる時間を短縮し、短時間でより効率的に移動したり働いたりできるようになり、時間は増えたはずなのにどうにも私たちには時間が足りないように感じられるのです。何かに常に追われ、忙しく生きているように思われます。時間は有限ではありますが、たくさんあります。たくさんあるはずなのに時間がない、という矛盾は、物理的な時間と精神的な時間とのズレによるものかも知れません。

ブックトークというものを通して、あらためて時間というものについて考えさせられました。テーマを決めるにあたり、最初に選んだのはミヒャエル・エンデ作、大島かおり訳の『モモ 時間どろぼうとぬすまれた時間を人間にかえしてくれた女の子のふしぎな物語』という児童文学の名作です。多くの人が一度は読んだことがあるかもしれません。読んでいない方は是非読んでいただきたいのですが、この『モモ』という本は、1973年にドイツで発行された本で40年以上前のものですが、時間の大切さ、人との関係の大切さなど、様々な考えさせられます。時間についてしっかりと考え直すことは、私たちが生きている日々を、今を考えることであり、生活の質を向上させていくためにも大切なことだと思います。

本番のブックトークでは、初めてということもあって、準備が徹底できておらず、ざり押しのようなままとめ方となってしまったように思われますが、テーマとしていた「時間」というものについては伝えられたと思います。「習より慣れる」という言葉はその通りだと思うのですが、しっかりとした準備なくしては、やはりよりよいものは出来ないと実感しました。

ブックトークを行った感想としては、面白かったというのが一番にあります。大変貴重な経験となりました。人前で話すということには、それほど抵抗はありませんでしたが、やはり緊張するものです。宮教生の多くは将来教員を志しているでしょうから、人前で話すことができるということは、様々な場面で役に立つスキルになることでしょう。そういった意味においてもなかなかない機会であったと思われます。また、ブックトークというものについてもよく考え、実際にやってみることができたという点で大変貴重な経験になりました。



『タイムマシン』
H・G・ウェルズ原作
眉村卓文、上田朱絵
講談社、1997年11月



『いのちの時間』
ブライアン・メロニー作
ロバート・イングペン絵
藤井あけみ訳
新教出版社、1998年11月



『モモ』
ミヒャエル・エンデ作
大島かおり訳
岩波書店、2005年6月

感想

大学院修士課程 教科教育専攻国語教育専修1年 千坂 菜穂



聞き手を小学6年生と設定し、学生に対してブックトークを行いました。テーマは「自分について考える」です。このテーマに決めた理由は、読書により自分らしさを認める心を持ってほしかったからです。発達段階上、高学年の児童は自分と他人との違いに気づきはじめる、あれこれ思い悩む時期にあたります。友達と関わりを持つなかで、自分と他者を比較して劣等感を持ったり、自信をなくしたりすることもあるでしょう。そういったときに、読書を通じて自分について考える機会を持たせたい。更に、色々な登場人物に出会い、多くの考えに触れる中で、自己肯定感を高め、個性(自分らしさ)を認める意識を育ませたいと考えました。

ブックトークをつくっていくにあたり、特に気をつけたのは本の選択です。紹介する本は3冊に限られていましたので、異なるジャンルの本を選び、様々な本に触れさせようと考えて思案しました。

最終的には絵本、物語、詩の本を選択しました。絵本はヨシタケシンスケの『ぼくのニセモノをつくるには』という本です。絵のインパクトが強かったため、表紙だけでも聞き手に興味を持たせられるという魅力があります。加えて、描き込みが細かいため、小学6年生でも十分に楽しめる作品です。そのため、この本を選びました。詩は「金子みすゞ童謡集 わたしと小鳥とすず」とを選びました。私は大学院で詩の鑑賞指導について研究していて、常日頃から子どもにとって詩を身近なものにしたいと考えています。こうした考えから、ぜひブックトークでも詩集を紹介したいと熱望していました。そこで、自分らしさに自信が持てるような詩が載っている、金子みすゞの詩集を選びました。最後に、先に決めた2冊の本とのバランスを考慮し、物語で読み応えのある小説、郷月美智子『しずかな日々』を選択しました。

実践を通して得たことは数多くあります。特に自分の中で大きくなったのは、日頃から児童を意識しながら読書しようという思いです。私は児童書を読むことが少なく、本を選ぶにあたっては随分と悩みました。自分の知識不足を痛感しました。もしかしら、今回選んだ本よりも、児童に紹介するのに適した本はあったかもしれません。また、星の数ほどある本の中から良書を選ぶセンスを磨くためには、たくさんの本を知り、感性を磨く必要があります。だからこそ、これから少しずつ児童書に触れようという思いが高まりました。



『ぼくのニセモノをつくるには』
ヨシタケシンスケ作
プロンズ新社、2014年9月



『しずかな日々』
郷月美智子作、またよし絵
講談社、2014年6月



『わたしと小鳥とすず』
金子みすゞ著
JULA出版局、1984年8月

児童書の一冊!

図書館の児童書の中から、新しく入った新刊本やおすすめの1冊を紹介します。

①『ぼくにもできるよ(てんかん啓発絵本)』

公益社団法人 日本てんかん協会(波の会)監修、みやざきこゆる絵
少年写真新聞社、2015年7月

Pick up!

「てんかん」という病気で、気をつけなければならないことを知っていますか?身近な病気にも関わらず認知度が低い「てんかん」が、わかりやすく解説されています。特別ではなく、だれもがかかる可能性のある脳の病気だからこそ、その特徴と基礎知識を学ぶことで危険を回避できるのです。病気を理解することが、あなたの友達を理解することにつながる。初めの一步にいかがですか。



②『世界でいちばん貧しい大統領のスピーチ』

くさばよし編、中川学絵
文芸春秋、2015年5月

Pick up!

第40代ウルグアイ大統領・ムヒカ氏、愛称エル・ペペ。地球の未来を話し合う国際会議に出席した彼のスピーチが、ここに収められています。「私たちの生き方が危機に陥っている!」会場の人々は、小国の話として初めこそ無関心でしたが、その言葉の持つ力にみるみる引き込まれていきます。人間にとって本当の意味での幸福とは何か…彼の問いかけに、あなたは答えを見つけられますか。



ブックトークを
やってみよう

その3 実践編②



校内で挑戦したあとは実際に子どもたちの前でやってみよう、ということで、4名の学生が、平成27年12月16日(水)宮城教育大学附属小学校6年生に、「ブックトーク」をしてきました。初めての子どもたちの前での実践に戸惑いながらも、元気溢れる子どもたちとのやり取りの中で、生き生きと実演する姿が印象的でした。

今回実演会にご協力くださいました附属小学校の先生方に感謝申し上げます。ありがとうございました。

感想

大学院修士課程
教科教育専攻国語教育専修1年 千坂 菜穂



小学6年生を対象にブックトークを行いました。テーマは2回目と同様、「自分について考える」です。

以前とはほぼ同じ構成でしたが、詩集「金子みすゞ童謡集 わたしと小鳥とすずし」の紹介のみ、変更を加えました。前回は学生の前でブックトークをした際、中川美佳先生にアドバイスを頂いたからです。そのとき、私は作者の説明、詩の朗読、朗読した詩の解説をしながらか詩集を紹介しました。ところが、中川先生に「その紹介方法では、読みたいとは思わない」とご指摘を受けたのです。紹介する3冊の本の中でも一番強く薦めたかった本だったため、私はショックを受けました。そのため、聞き手「読みたい」と思わせられる紹介方法を考えながら、何度も練習を繰り返し、試行錯誤を繰り返しました。最終的には、自分が薦めたい詩を朗読するという方法で紹介することにしました。

詩集に対する子どもたちの反響は大きかったと思います。ブックトーク終了後、紹介した本に触れる機会を設けました。そのときの様子を見たところ、思いのほか詩集を手にする児童が多かったのです。驚くと共に、苦労して詩の紹介方法を考えて甲斐があったと嬉しくなりました。

実際に小学6年生の前でやってみると、学生とはまた違った反応があり、楽しくブックトークできました。聞き手が大学生のときと比べ、やはり反応が大きかったのが印象的です。初めに表紙を見せながら本のタイトルを言う、「あ、それ知ってる」とか、感嘆の言葉を口にする子どもが多いように感じました。ほかに、絵本の挿絵を見せながら紹介すると、身を乗り出して本を見ようとしていました。ブックトークをしながらも、相手が興味を持ってきていると実感できました。それが原動力となり、話を進めるのが楽しくなったように思います。

3度目のブックトークを経験したあとは、今後もぜひブックトークをしたいと思うようになりました。この方法なら、しっかりした内容を持つ本を自然に薦められるからです。以前、私が教育実習を行ったとき、内容の軽い本を読んでいることが気になりました。どうすれば星の数ほどある本のうち、より良い本を子どもたちに届けられるのか、考えたことがあります。ブックトークなら、無理強いせず良い本を読みたいと思わせられるのではないのでしょうか。子どもたちが豊かな読書生活を送れるよう、今後もブックトークの力を磨きたいです。

感想

大学院修士課程
教科教育専攻国語教育専修2年 王 禹晴



附属小学校でブックトークを実践してみた。ブックトークをするのは簡単なことではないと感じた。ブックトークをする順番から感想を述べていく。

最初に、どんなテーマが6年生にとって、これからの勉強や生活に役立つのか、いろいろ考えた。私は外国人であり、一人で日本に留学をしている経験(もう大人なのに、来たばかりの時、何もできなかった)から、6年生にも「自立」ということを早めに伝えたいと思った。そこで、「ひとり立ち」というテーマを想定した。

本選も大変であった。特に、私はテーマを決めてから本を選ぶという流れで、日本の子どもの本にも詳しくない。幸い日本はアニメが盛んで、スタジオジブリと宮崎駿が人気がある。特に宮崎駿の監督した作品が、ただの娯楽ではなく、深い意味を含んでおり、主人公もほとんど13歳ぐらいであるので、小学校5、6年生にぴったりだと思う。それで、最初に「魔女の宅急便」に決めた。それからインターネットの利用と先生の紹介から、「霧のむこうのふしぎな町」と「はだか」を決めた。時間と都合に限りがあるので、ジャンルは二つ重なったのが残念である。

また、子どもにブックトークのやり方を教えるために、いろいろ工夫した。子どもが読めるように、構成メモの言葉を変えたり、漢字をかなで書き換えた。内容と過程の解説が退屈で、どのように子どもの注意力を引いて、つまらなくならない様に、論していくのかも考えなくてはいい。

次に、実践の前の準備である。何度も練習したが、声が小さかったり、台詞を忘れたりしていた。また、時間が多ければ、子どもの興味を引く道具などをもっと作れると思う。

最後に、実践の現場からの感想を言う。私は「霧のむこうのふしぎな町」を一冊紹介した。最初に、6年生だから、反応してもらえないと思ったが、実際に子どもの興味を引くことに成功したと思う。書名を紹介したとたん、読んだ子が囁き合った。挿絵を見せる時も、反応をもらった。また、呉さんが本について質問する時も、ちゃんと答える子もいた。千坂さんが紹介する時も、子どもたちが興味津津である。ブックトークが終わって、堀之内先生から、「図書館に行こう」という子がいると聞き、私はとても嬉しかった。

感想

大学院修士課程
教科教育専攻国語教育専修2年 呉 芝蓉



ブックトークを実際にやってみると、思ったより人前で話すのは難しかった。声が小さかったり、下を見て話してしまったり、原稿がずれたことなど。多くの人の前で分かりやすく自分の考えを話すことの難しさ、大切さを認識する機会であった。

今回のブックトークは、説明の部分は三人に分けて紹介した。自分がブックトークの定義を説明する部分を分担した。

ブックトークは、話し手一人のことではなくキャッチボールみたいだ。聞き手の態度や反応も大切なことが実感出来た。

「発表を聞いて、○○さんの紹介した本を読んでみたい」という効果を与えられれば、読書の幅を広げるいい機会である。

ブックトークをよりよくするためには「授業時間の把握、子どもの反応の把握、内容を完全に伝えるか、予想の効果を達成するか」。この四点をもっと工夫すべきだと思う。

感想

大学院修士課程
教科教育専攻国語教育専修1年 邢 妍



最初に授業でブックトークを聞いた時、ブックトークについて少しも何にもわからなかった。私にとって字面から見れば、英語の「book」+「talk」だけの簡単な組み合わせだということだと思った。しかし、先生にブックトークを説明していただくにしたがって、だんだんブックトークはどんなことか知った。

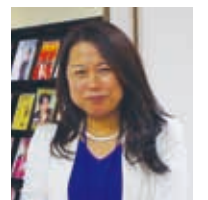
ブックトークの目的は子どもの読書の興味を引くために、自分自身で読書世界を楽しむことだと思われ、だから、ブックトークの形式では子どもたちが興味を持ちそうなものが大事だ。生徒たちのために、どうすればいいか非常に工夫することだ。

今回の実践を通して、ブックトークについて私もよく勉強になった。ブックトークの流れを学んだことは人生の中で貴重な経験だと思っている。中国の小中学校でそんなようなブックトークの授業は今までやっていないので、チャンスがあれば、ぜひ伝えたい。子どもたちは世界の未来なので、読書の海でできるだけ活躍したほうがいいと思っている。子どもたちのために保護者と教師たちは手をつなぎながらいっぱい力を入れることが大切だ。

特別寄稿

私の「売り」

仙台市立七郷中学校 主幹教諭 中川 美佳



「なるほどね。つまりーということね。」「はい。発表者に拍手」生徒の言葉と誠実に向き合わずにそんなセリフを口にする教師が意外に多い。学歴や知識があっても、人柄が良くても、こういう人は教師に向いていないと思う。「つまりー」と言い換えた言葉は本当に生徒が言わんとしたことであつたか?「拍手」とは発言のどんな点に対する称賛であつたのか?明確に答えられないようなら、そんなことを言うべきではないのである。生徒は教師が自分の言葉を真剣に受け止めようとしているかどうかを敏感に感じ取る。真意を汲み取り努力をせず、分かったようなリアクションを取る教師に対して、もう生徒は心を閉ざさない。真剣に考えた結果を言葉に変えるという、かなりのエネルギーを使う活動を放棄し、大体こんなようなことを言っておけば適当にやり過ごせるだろうと思つてそのものを停止してしまう。私が生徒だったとしてもそうする。

人に話をする人間にとって、最も大切なものは「誠意」である。

ブックトークに必要なスキルについて語るとき、私は、「本の知識」と「プレゼンテーションの力」に加えて、「誠実に本と子供と向き合う態度」を挙げる。私自身、この3点目には自信がある。

ブックトークは一回一回が真剣勝負。この人が言うなら、読んでみようと思わせることが目標。この人の紹介する本は読みたいと思わせたらその本まで死んでしまふ。責任重大である。一般論の綺麗な言葉を並べてそれらしく喋ってもダメ。みんなが名作と言っているからその本を紹介するなんていう無責任な紹介もダメ。自分が本当に大切に思える本だけを誠心誠意語る。聞き手の嗜好や発達段階に最も合う言葉は何か、どうすれば相手の一度きりのこの時間を充実したものにできるかを考えながら、全力で語る。そうやって誠実に本に、そして相手に向き合うことでしか聞き手の信頼は得られない。

言ってみれば授業もまったく同じ。「私のことは嫌いになっても○○○のことは嫌いにならないでください!」(涙)」という某アイドルグループのちょっと古い引退会見のセリフが思い出される。

良い本を紹介したい子供たちに名作を手渡したいなどと、本の素人の私が言えたことではない。一番伝えたいのは、好きなものに会える喜びであり、好きなものがたくさんある幸せである。だから全力で読んで全力で伝え方を考え、命を削ってしゃべり続けている。教育大学で学ぶ学生の皆さんに、「語ることにしてこんな馬鹿正直に向き合っている人がいるんだなあ」とあきれてもらえれば本望だ。

図書館と本のエトセトラ

et cetera

第1回

卒業そして
新生活

図書館や本をめぐる話題から毎回、テーマを決め、さまざまな本・作品を取り上げます。
連載第1回では、卒業と新生活にちなんだ本を紹介します。

卒業式の日には特別な空気が満ちる 朝井リョウ『少女は卒業しない』（集英社、2012年3月、文庫版2015年2月）は、廃校を目前に控えた高校を卒業する少女たちを描いた連作短編集。過去と未来の間で揺れる想いを抱えたまま、彼女たちは卒業式という特別な日を生きる。

卒業式の〈感動〉性の由来 有本真紀『卒業式の歴史学』（講談社選書メチエ、2013年3月）は、卒業式の〈感動〉性が歴史的に構築されていく過程を論じた、少し専門的な本。

新生活の期待と緊張 岩井俊二監督、松たか子・田辺誠一主演『四月物語』（1998年劇場公開。DVD、ノーマンズ・ノース発売・販売）は、北海道から上京した大学生の物語。引っ越しの戸惑いや、大学のクラスでのぎこちない自己紹介、一人きりの夕食のさびしさなど、新しい生活への期待と緊張が、四月の東京の美しい風景とともに描かれる。

4年間の〈奇蹟〉 伊坂幸太郎『砂漠』（実業之日本社、2005年12月。新潮文庫版2010年7月）は、仙台の国立大学で出会った5人の男女が、4年の学生生活の間に遭遇する事件と出来事を描く青春小説の傑作。

大学で勉強するために 大学1年生の間にぜひ読んでおきたいのが、佐藤望編著『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門』（第2版、慶應義塾大学出版会、2012年9月）。この1冊で、授業ノートの取り方、図書館の使い方、本の読み方、レポートの書き方の基本が分かる。同じ『アカデミック・スキルズ』シリーズの大出敦『クリティカル・リーディング入門—人文系のための読書レッスン』（慶應義塾大学出版会、2015年10月）も役に立つ。

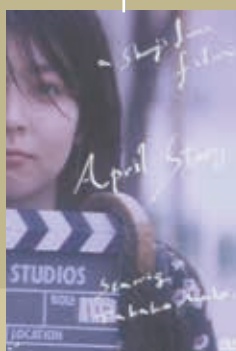
朝井リョウ
『少女は卒業しない』
（集英社文庫）



有本真紀
『卒業式の歴史学』
（講談社選書メチエ）



岩井俊二監督
『四月物語』
（ノーマンズ・ノース）



©1998 ROCKWELL EYES INC.

伊坂幸太郎
『砂漠』
（新潮文庫）



佐藤望編著
『アカデミック・スキルズ』
（慶應義塾大学出版会）



平成28年度図書館開館カレンダー

通常開館 月曜日～金曜日 9:00～22:00

開館 休業期間の月曜日～金曜日 9:00～17:00

開館 土曜日・日曜日 10:00～17:00

休館日 国民の祝日・本学創立記念日(10/18)など

平成28年4月	平成28年5月	平成28年6月	平成28年7月	平成28年8月	平成28年9月
月 火 水 木 金 土 日 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	月 火 水 木 金 土 日 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	月 火 水 木 金 土 日 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30	月 火 水 木 金 土 日 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	月 火 水 木 金 土 日 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31	月 火 水 木 金 土 日 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30

※13日前後に一斉休業予定

休館日 春季休業期間中の土日
4月29日 昭和の日
5月3日 憲法記念日
5月4日 みどりの日
5月5日 こどもの日
8月11日 山の日
9月19日 敬老の日
9月22日 秋分の日

編集後記

詩人の萩原朔太郎は散文詩「AULD LANG SYNE!」（「アールド・ラング・サイン」はスコットランドの民謡のこと。日本では「螢の光」のタイトルで知られる）の自註に「人は新しく生きるために、絶えず告別せねばならない。すべての古き親しき知己から、環境から、思想から、習慣から」と記しました。春は「告別」の季節。そして「新しく生きる」ための季節でもあります。卒業生・新入生の皆さんに、それぞれ新しい人生の幕が上がることを祈念しています。本誌の内容や宮城教育大学附属図書館の活動・運営に関するご意見・ご要望がありましたら、図書館カウンターまたは下記の連絡先までお寄せください。



宮城教育大学附属図書館

〒980-0845 仙台市青葉区荒巻字青葉149

TEL:022-214-3350

E-mail:toshokan@staff.miyakyo-u.ac.jp

こもれび No.128

附属図書館オフィシャルサイト

<http://library.miyakyo-u.ac.jp/>

【編集発行】

宮城教育大学附属図書館
運営委員会



このパンフレットは環境に
配慮した「水なし印刷」により
印刷しております。



環境にやさしい植物油インク
「VEGETABLE OIL INK」で
印刷しております。